

7 フォローアップの方法

7.1 取組工程

本構想において取り組む事業化プロジェクトの取組工程を次表に示します。

本工程は、社会情勢等も考慮しながら進捗状況や取組による効果等を確認・把握し、必要に応じて変更や修正等を行ったうえで最適化を図ります。

また、原則として5年目となる令和10年度(2028年度)を目途に中間評価を行い、構想の見直しを行います。

プロジェクト名	策定年度	2年目	3年目	4年目	5年目	6～10年目
	令和6年度 (2024年)	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11～15年度 (2029～2033年)
バイオマス産業都市構想 進捗管理	産業都市構想 策定				中間評価	事後評価
①各種補助支援による秦野 産木材の面的利用促進 【短期】	広葉樹整備 補助支援実施 薪ストーブ 補助要件等の 整備	補助支援実施				
②表丹沢野外センターの 木質バイオマスボイラー 更新【短中期】		木材の高効率回収 体制・システムの構築	・関係者合意形成 ・実施体制の確立 ・設備選定	設備 設置	運用・改善	
③市内産業間での 木質燃料の面的利用 【中長期】		木材の高効率回収 体制・システムの構築		・需要家への説明会実施 ・設置事業者の選定 ・設備選定	設備 設置	運用・改善
④羽根森林資源活用拠点 (仮称)への木質バイオ マス利用設備導入 【中長期】	・事業性評価			・関係者合意形成 ・実施体制の確立 ・設備選定	設備 設置	運用 ・改善
プロジェクト名	策定年度	2年目	3年目	4年目	5年目	6～10年目
	令和6年度 (2024年)	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11～15年度 (2029～2033年)
バイオマス産業都市構想 進捗管理	産業都市構想 策定				中間評価	事後評価
⑤下水汚泥等の肥料利用 研究【短中期】	・原料構成の検証(実験) ・農地への施肥実証	・原料構成の確定 ・実施体制の検討 ・事業モデルの策定	・事業モデル の確定 ・製造設備 設置	運用・改善		
⑥メタン発酵ガス化発電 事業【中長期】	・事業モデルの精査 ・事業用地の取得 ・FIT認定取得			設備工事	運用・改善	

図 29 本構想の取組工程

7.2 進捗状況の管理

本構想の進捗状況の管理指標例をプロジェクト毎に表 21 に示します。

表 21 進捗管理の指標例

施 策		進捗管理の指標
全体		<バイオマスの利用状況> ✓ 各バイオマスの利用量及び利用率と目標達成率 ✓ エネルギー（電気・熱）生産量、地域内利用量（地産地消率） ✓ 目標達成率が低い場合はその原因 ✓ バイオマス利用施設におけるトラブルの発生状況 ✓ 廃棄物処理量（可燃ごみ量、ごみ質、組合負担金等） ✓ これらの改善策等 <バイオマス利用施設整備の状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか ✓ 遅れている場合はその原因や対策等
1	秦野産木材の面的利用促進 PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 林地残材の利用量と目標達成率 ✓ ほだ木及び薪生産量
2	木質バイオマスボイラー更新 PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 林地残材の利用量と目標達成率 ✓ 化石燃料削減量 <バイオマスボイラーの状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか ✓ 遅れている場合はその原因や対策等 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等
3	木質燃料の面的利用 PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 林地残材の利用量と目標達成率 ✓ 化石燃料削減量 <バイオマスボイラーの状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか ✓ 遅れている場合はその原因や対策等 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等
4	木質バイオマス利用設備導入 PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 林地残材の利用量と目標達成率 ✓ 化石燃料削減量 <バイオマスボイラー・コジェネレーション設備の状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか ✓ 遅れている場合はその原因や対策等 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等
5	下水汚泥等の肥料利用研究 PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 脱水汚泥及び乾燥汚泥の利用量と目標達成率 ✓ 利用耕種農家の軒数及び肥糧利用量 <肥料製造設備の状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか

		✓ 遅れている場合はその原因や対策等 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等
6	メタン発酵ガス化発電事業PJ	<バイオマスの利用状況> ✓ 脱水汚泥の利用量と目標達成率 ✓ 食品系廃棄物（事業系厨芥類、給食残さ、食品工場残さ）の利用量と目標達成率 ✓ 液肥の利用量と目標達成率 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等 <メタン発酵ガス化発電設備の状況> ✓ 計画・設計・地元説明・工事等の工程どおりに進んでいるか ✓ 遅れている場合はその原因や対策等 ✓ 利用施設におけるトラブルの発生状況、改善策等

7.3 効果の検証

7.3.1 取組効果の客観的検証

本構想を実現するために実施する事業化プロジェクトの進捗状況及び取組効果の検証は、各プロジェクトの実行計画に基づき事業者が主体となって5年ごとに実施します。

具体的には、構想の5年間が経過した時点で、バイオマスの利用量・利用率を把握するとともに、事業を展開していくにあたっての課題や問題点などの検証をし、必要に応じて目標や取組内容を見直す「中間評価」を行います。

さらに計画機関の最終年度においては、バイオマスの利用量・利用率を具体的に把握することにより、効果の検証と課題への対策を行い、実効性を高めていきます。

また、中間評価及び事後評価については、「秦野市環境審議会等」に報告し、意見を求め各評価以降の構想等の推進に反映させることとします。

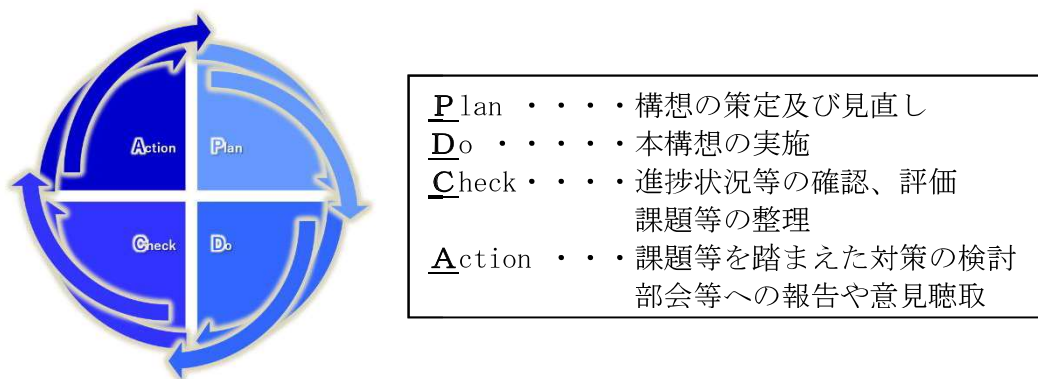


図 30 PDCAサイクルによる効果の検証

7.3.2 中間評価と期中評価

(1) 中間評価

本構想の中間年となる令和 10 年度(2028 年度)に実施します。

ア バイオマスの種類別利用状況

バイオマスの種類ごとに、5 年経過時点での賦存量、利用量、利用率を整理します。これらの数値は、バイオマス利用施設における利用状況、廃棄物処理施設の受入量実績値、事業者への聞き取り調査、各種統計資料等を利用して算定します。

イ 取組の進捗状況

6 つの事業化プロジェクトごとに取組の進捗状況を確認し、利用量が少ない、進捗が遅れている等の場合は、原因や課題を整理します。

ウ 本構想の見直しの必要性

進捗状況の確認で抽出された原因や課題に基づいて、必要に応じて目標や取組内容を見直します。また、実施中に検討・実施された新たなプロジェクトについて、本構想への記載を検討する。

(2) 期中評価

本構想の期間が終了する令和 15 年度(2033 年度)を目途に、計画期間終了時点における(1)と同じ「バイオマスの種類別利用状況」「取組の進捗状況」に加え、以下の項目等について実施します。

ア 改善措置等の必要性の検討

進捗状況の確認により抽出された各取組の原因や課題について、改善措置等の必要性を検討・整理します。

イ 総合評価

計画期間全体の達成状況について、総合評価を行います。前項で検討・整理した改善措置等の必要性や社会情勢の変化等を踏まえ、本構想期間終了後の目標達成の見直しについて、検討・整理します。

上記内容については、秦野市環境審議会へ報告し、次期構想策定に向けた課題整理や、今後有効となる取組について、他機関から助言を得て検討を行います。

8 他の地域計画との有機的連携

本構想は、市の計画における「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市」という都市像を掲げる「総合計画」を最上位計画として、環境分野を補完するとともに、統括・強化する「第三次秦野市環境基本計画」や「秦野市地球温暖化対策実行計画」等、関連施策や計画等との連携・整合を図る位置付けとします。また、3.2章の目指すべき将来像にて前述したとおり、基本構想編において掲げた5つの基本方針を、本構想では実現を目指す計画として具体化しています。

このほか、必要に応じて周辺自治体や都道府県等を含む関係機関における構想・計画・取組等とも連携を図りながら推進します。

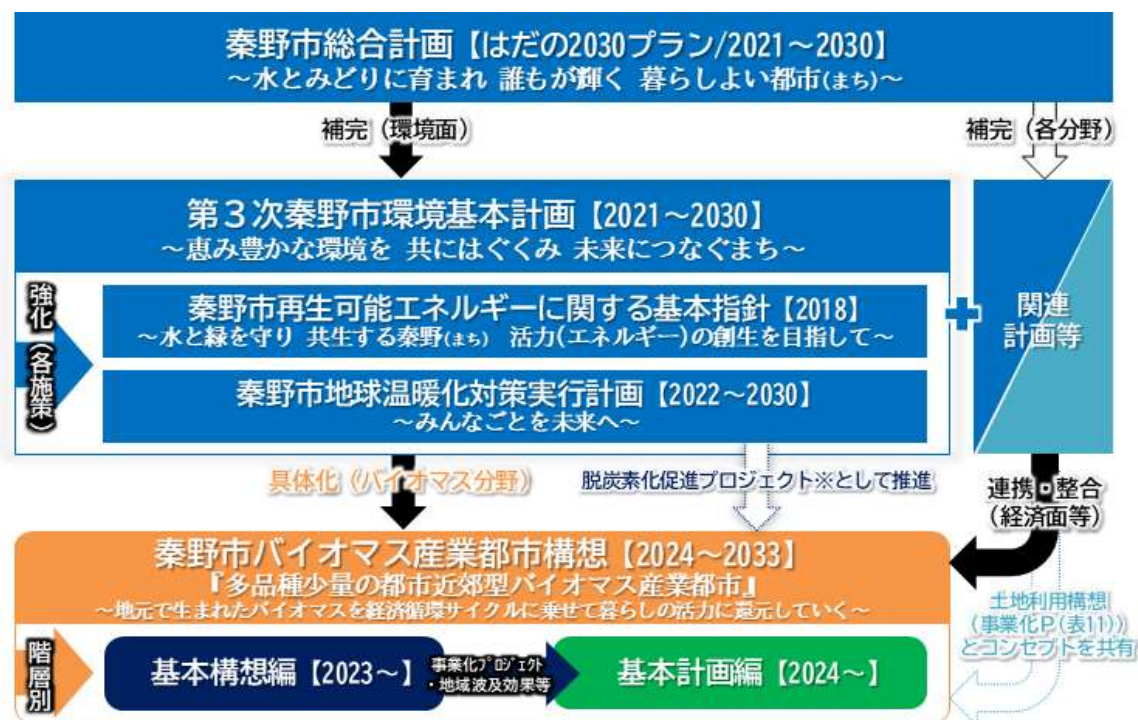


図 31 秦野市バイオマス産業都市構想の位置付け

秦野市バイオマス産業都市構想

令和6年(2024年)8月発行

編集・発行：秦野市環境産業部環境共生課

〒257-8501 秦野市桜町一丁目3番2号

tel:0463-82-9618/fax:0463-82-6256